

東京教区時報

WEB: <http://www.nskk.org/tokyo/index.htm> E-MAIL: comm.tko@nskk.org
Phone: 03-3433-0987, Fax: 03-3433-8678 Diocese Office

第1077号
2008年4月27日発行
日本聖公会東京教区
港区芝公園3-6-18
編集人 伊藤裕元

◇5月の代禱・信施奉献先
▽アジアエキユメニカル週間
(5・4・11)▽名古屋学生青年
センターのため▽カパティラン
の働きのため▽東京教区神学生
のため(聖霊降臨後第2主日)

▽三光教会で講演会 本日14
時〜16時、演題「死から生とい
のちを考える」―講師・高宮有
介昭和大学医学部専任講師)。
参加費300円。会場Ⅷ03(37
81)2554。

▽こどもフェスタ・イン・つ
きしま 5月5日(月・休)10
時半〜15時、月島聖ルカ保育
園・月島聖公会で開かれる。教
区日曜学校連絡会(SSS)の
主催で、信仰と生活委員会後
援。こどもの日のプログラム

…GW連休中ながら大人たち
の参加も呼びかけられている。
車は近隣駐車場利用。事務局Ⅱ
阿佐谷聖ペテロ教会、Ⅷ03(3
338)4145。

▽5・3憲法集会&銀座パ
レード 平和を実現するキリス
ト者ネットなど諸団体主催、日
比谷公会堂で5月3日13時半。
15時半パレード出発。照会Ⅷ03
(3203)0374。

▽聖路加国際病院礼拝堂Ⅱオ
ルガンコンサート&夕の祈り
5月7日(水)18時半、19時か
らそれぞれ。演奏者Ⅱ高橋秀
▽「ぶどうのいえ」でボラン
ティア募集 作業内容は共用個
所の清掃で毎月第3水曜10時よ
り約1時間。募集人員5、6人。
連絡・照会は事務局Ⅷ03(38

18)3362宛に。
◆とこしえの平安

4月14日 加藤 妙子(45)
4月15日 永島 良子(95)
三光

4月15日 佐々木敏子(78)
聖アンデレ

今週の予定

4月27日~5月5日

27(日) 復活節第6主日
聖バルナバ教会牧師任命式
5月
1(木) 昇天日
教区企画室
4(日) 復活節第7主日(昇天後主日)
小金井聖公会牧師任命式
合同堅信式(主教座)
5(月) こどもフェスタ(月島)

《掲載記事の転用可(事前連絡要)》

私の父方の祖父は京都教区の司祭
で、母方の祖母は結婚するまで婦人伝
道師として働いていた。両親祖父母の
代から聖公会の信徒で、私は生後6ヶ
月の時に八代斌助主教より受洗し、
ミッシヨンの幼稚園に通い、神戸で聖
公会の高校・大学を
卒業し聖路加国際病
院で奉職させていた
だいている。ある教
会の信徒の方から

「あなたはとても恵
まれた方ですね」と
言われたことがあるが、10代の後半か
ら30代の半ばまでは主日の聖餐式にも
出席せず、学校や病院のチャペルに足
を踏み入れることもなく、私にとって
教会は遠く離れたところで「恵まれて
いる」など考えもしなかった。

父は牧師館や校宅で育ったが、母

早川 潔

は、祖父が奈良県の山村の小学校の校長
で現在とは違い交通事情も悪かったため
に、日曜日に教会に行くことが困難で、年
に何度か聖餐式に司祭が訪問してくれる
のを祖父母が心待ちにしていたと言う話
を聞いたことがある。

神戸出身の私は神戸の教会
に行くことがあるが東京駅を
7時頃に出る『のぞみ』に乗れ
ば聖餐式には十分間に合う。

自宅近くの神愛教会へは、平
日マンション駐車場で昼寝ば
かりしている車を使えば10分
程で行ける。礼拝を捧げるのが困難な状
況に強いられている人々が多くいるなか
で、何の心配も無く教会へ足を運ぶこと
が出来る環境で生かされている事は神様
から与えられた大きな恵みであると言っ
ことに、最近になって気づかされた。

(聖路加国際病院聖ルカ礼拝堂信徒)

正義と平和協議会

運営委員会報告(4月18日)

*人権委員会連携のもと「日の丸・君が代」問題で関連施設への抗議訪問(小学校・3月24日)の報告と、定期会(4月14日)の報告。

*協議会「懇談会(3月19日・4月16日)」の報告。

*前記の抗議訪問と関連して当事者教師(聖公会信徒2人)の「話を聴く講演会開催につき協議(日程等の再調整)」。

*協議会「一日研修会(7月21日)」開催へ向けた諸協議。

*申請のあった1団体会員・個人会員2人の加入承認。

*その他

▽聖公会・ルーテル合同礼拝

ルーテル教会と聖公会の対話

の成果である『共同の宣教に召されて』が翻訳・出版(5月、刊行予定)されることを記念して、日本福音ルーテル教会と日本聖公会の合同礼拝が5月11日(聖霊降臨日)午後、聖アンデレ教会で行われる。2月のローマ・カトリック教会との合意文書出版記念・合同礼拝につづく、管区エキュメニズム委員会の働きかけによる他教派合同礼拝となる。礼拝は二部形式で、第一部(15時〜16時半)は両教会の紹介と「対話の意味と成果」と題する西原廉太司祭(中部教区)の話。第二部(17時〜19時)は、テーマ「共に食卓を囲む」による聖餐式。司式は植松誠首座主教・加藤博道エキュメニズム担当主教

(東北教区)、説教「キリストにあって一つ」をルーテル教会の徳善義和牧師が受け持つ。多数参加をと呼び掛けている。照会などは管区事務所宛に、TEL03(5228)3171。会場TEL03(3431)2822。

▽沖繩週間／沖繩の旅 6月20日(金)〜23日(月)、「命どう宝く隠された事実―教科書検定問題から見ると」のテーマで。主催は沖繩教区宣教師部・管区正義と平和委員会。日程・プログラムほか費用など詳細は各教会・礼拝堂に配付されている案内書参照または同委員会宛に、TEL03(5228)3178。5月12日申込締め。教区では信仰と生活委員会・青年活動支援部会が関連窓口。

【学びと働きから】75

大学チャプレンの仕事

一歩足を踏み入れるとしっかりと「勧誘」されるのでは?というコワさ、漠然とある「敷居が高い」印象、宗教に頼るのは弱い人間のことという誤ったイメージ:それら今時の学生が抱くチャペル(とその働き)に対する印象は、わかりやすく福音を伝えることもさることながら、それ以前にチャプレンが挑まねばならない「壁」である。定例礼拝、特別礼拝をあわせて年間七百回を越える礼拝の「中身」を充実させる努力を脇へと追いやるつもりはないものの、思いのほか厚くて高い既述の「壁」を打ち破るために、大学

チャプレン団とチャプレン室事務課職員とが日々思いをめぐらせている。

礼拝中はチャペルの扉を全開にし入りやすい雰囲気をつくる、入口に花を飾ったり、礼拝の所作や式文の用い方を解説した「初めてチャペルに来られた方へ」なるパンフレットを作成するなど、まずは入口を「通過」してもらうための試みを数年前から始めた。加えて今年からは、毎週金曜日の夕方に行われる週日礼拝で学生の関心に根差したテーマを月毎に設け、このテーマに根差した話をチャプレンが行うこととした。卒業、入学、進級など生活環境が大きく変化する4月は「新しく生きるということ」、5月病で?キャンパスラ

イフにおける目標を見失いそうになるであろう5月は「見つけるといふこと」といった具合。

この試みが功を奏すかどうかはわからない。しかしこうした試みを企画立案する際のクリスマスチャンではない職員の発想、チャペルに学生を招きたいという熱意に触れること自体が新鮮であり、ともすればチャプレンのそれがまだまだ「開かれて」いないことに気づかされたりする。

彼らを如何にチャペルに招くかを考えているつもりが、ふと気づくと彼らから学ばされることの方が多い毎日、恵みの日々である。

立教大学チャプレン

司祭 八木正言